

地方独立行政法人長野県立病院機構
第2期中期目標期間の見込評価結果
(案)

令和元年 月

長野県

長野県は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項に基づき、次のとおり地方独立行政法人長野県立病院機構（以下「病院機構」という。）の第2期中期目標期間（平成27年度から令和元年度）の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する評価（以下「中期目標期間の見込評価」という。）を行った。

第1 中期目標期間の見込評価の概要

1 中期目標期間の見込評価の目的

中期目標期間の見込評価は、評価の結果を中期目標期間終了時の病院機構の業務の継続又は組織の存続の必要性その他その業務及び組織の全般にわたる検討及び第3期中期目標の策定に活用することを目的とする。

2 中期目標期間の見込評価に関する基本方針等

中期目標期間の見込評価は、「地方独立行政法人長野県立病院機構の評価に関する基本方針」及び「地方独立行政法人長野県立病院機構の中期目標期間の業務実績に関する評価実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて行った。

3 中期目標期間の見込評価の視点

第2期中期目標期間のうちの4年間（平成27年度～平成30年度）において、中期計画に沿った病院運営が確実に行われ、また、県民に提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の改善及び効率化並びに財務内容の改善が図られているかどうかを検証し、第2期中期目標の達成の見込について、評価を行う。

4 地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会の意見聴取

中期目標期間の見込評価を行うにあたり、地方独立行政法人法第28条第4項及び実施要領の規定に基づき、地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）を7月24日、26日、8月8日及び9月2日に開催し意見を聴取した。

〔地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会委員名簿〕

氏名	役職等
鮎澤英之	あがたグローバル税理士法人 公認会計士・公認不正検査士
小口壽夫	諏訪赤十字病院 名誉院長
○小宮山 淳	松本秀峰中等教育学校校長
関 利恵子	信州大学経法学部 准教授
浜田 淳	岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授
宮坂 佐和子	諏訪赤十字病院 副院長兼看護部長
山上 哲生	大日本法令印刷株式会社 代表取締役社長

（50音順、敬称略、○は委員長）

2 項目別評価

(1) 大項目「第1 県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の評価

県による評価	A	病院機構による評価	A
--------	---	-----------	---

〔評価区分と判断の目安となる業務実績〕

S 中期目標・中期計画を大幅に上回って達成することが見込まれる

A 中期目標・中期計画を達成することが見込まれる

B 中期目標・中期計画を下回ることが見込まれ、改善を要する

C 中期目標・中期計画を大幅に下回ることが見込まれ、抜本的な改善を要する

ア 評価の理由

「県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の各小項目における取組について、いずれも中期目標・中期計画の達成が見込まれる。

信州医療センターにおいては、須高地域における中核病院としての役割を担うとともに、感染症センターを開設し、感染症の診療・研究・教育体制を整備するなど県内の感染症医療の拠点としての機能を強化した。産科医療については、医師不足により、平成28年度に一時的に分娩休止をせざるを得ない時期があったが、速やかに取扱いを再開し、受入体制を充実させている。

こころの医療センター駒ヶ根においては、県の精神科医療の中核病院として、精神科救急や児童・思春期精神科医療、依存症治療、認知症治療などの専門医療を充実させるとともに、災害派遣精神科医療チーム（DPAT）の体制を整備した。

阿南病院においては、下伊那南部地区の唯一の病院として、無医地区への巡回診療や訪問診療・看護等を提供するとともに、「認知症なんでも相談室」などの認知症の方や家族への支援、小児科の日曜診療の実施など、地域を支える医療を充実させた。

木曾病院においては、木曾医療圏唯一の病院として、全診療科で24時間365日のオンコール体制での救急医療や小児・周産期医療を提供するとともに、地域がん診療病院の指定を受け、がん診療機能を向上させた。また、地域包括ケア病棟を開設し、患者の状態に応じた医療の提供体制を整備するなど、木曾地域の医療の中核を担った。

こども病院では、県の小児医療の中核病院、総合周産期母子医療センターとして、救命救急医療や最先端の専門医療を提供するとともに、小児集中治療室（PICU）の増床による受入体制の強化や信州大学との連携による小児がん診療機能の向上、成人移行期患者への支援にも積極的に対応してきた。

以上のとおり、各病院は、地域に必要な医療・介護サービスを積極的に提供してきたことが認められた。

また、信州医療センターと本部研修センターの協働による初期臨床研修医の受入・養成やこころの医療センター駒ヶ根及びこども病院における連携大学院教育の開始、信州木曾看護専門学校において3年連続で看護師国家試験の受験者全員が合格したことについては、県内の医療を担う人材の養成・確保に貢献した取組であること、または今後貢献が期待できる取組であることが認められた。

以上のことを総合的に判断し、「県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」について、中期目標・中期計画の達成が見込まれるため、A評価とした。

イ 第3期中期目標期間における病院機構全体の課題

- 人口減少時代に突入し、少子高齢化が進行している我が国において、医療や介護サービスの需要が大きく変化している。については、地域の需要を見極め、質の高い医療・介護サービスを効果的かつ持続的に提供していただきたい。
- 無医地区やへき地における医療を持続的に提供していくため、ICT機器を用いた遠隔診療等の導入を進めていただきたい。
- 県内の医療水準を向上するため、関係機関と連携しつつ、地域に必要な医療人材を積極的に養成していただきたい。

ウ 小項目別の評定と主な取組

小項目	県の 評定	機構の 評定
1 医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供		
(1) 地域医療の提供	A	A
(2) 地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進	A	A
(3) 高度・専門医療の提供	A	A
(4) 災害医療などの提供	A	A
(5) 医療におけるICT（情報通信技術）化の推進	A	A
2 地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上		
(1) 地域の医療、保健、福祉関係機関などとの連携	A	A
(2) 5病院のネットワークを活用した診療協力体制の充実強化	A	A
3 人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献		
(1) 医療従事者の確保と育成	A	A
(2) 県内医療に貢献する医師の育成と定着の支援	A	A
(3) 信州木曾看護専門学校運営	A	A
(4) 県内医療水準の向上への貢献	A	A
(5) 医療に関する研究及び調査の推進	A	A
4 県民の視点に立った安全・安心な医療の提供		
(1) より安全で信頼できる医療の提供	A	A
(2) 患者サービスの一層の向上	A	A

[評定区分と判断の目安となる業務実績]

S 中期目標・中期計画を大幅に上回って達成することが見込まれる

A 中期目標・中期計画を達成することが見込まれる

B 中期目標・中期計画を下回ることが見込まれ、改善を要する

C 中期目標・中期計画を大幅に下回ることが見込まれ、抜本的な改善を要する

エ 主な数値指標

(7) 患者数

(単位：人)

区 分		H26	H27	H28	H29	H30	R元 (年度計画)
信 州 医 療 セ ン タ ー	入院	83,341	93,727	86,214	90,537	90,876	(90,261)
	外来	119,139	127,005	121,387	122,540	120,801	(123,535)
こころの医療 センター駒ヶ根	入院	34,159	36,963	36,431	37,848	37,515	(38,228)
	外来	39,575	42,537	41,095	41,024	40,051	(37,200)
阿 南 病 院	入院	17,780	16,732	19,265	20,818	19,272	(21,300)
	外来	51,418	49,893	48,718	48,562	47,667	(49,254)
木 曾 病 院	入院	54,196	51,162	50,713	46,554	48,709	(49,037)
	外来	136,302	135,694	131,909	128,076	127,418	(125,475)
こども病院	入院	53,069	54,382	54,060	53,560	55,723	(54,675)
	外来	59,429	59,651	61,138	62,842	64,946	(66,557)

(イ) 手術件数等 (信州医療センター)

(単位：人、件)

区 分	H26	H27	H28	H29	H30	R元 (年度計画)
新 外 来 患 者 数	23,497	26,501	25,052	24,943	24,623	(25,500)
手術件数 (手術室)	1,670	1,703	1,546	1,603	1,613	(1,600)
内 視 鏡 検 査 件 数	5,917	6,360	6,605	6,439	7,013	(8,000)
分 娩 件 数	291	192	82	123	186	(220)

(ウ) 在宅医療件数 (訪問診療・看護・リハビリ)

(単位：件)

区 分	H26	H27	H28	H29	H30	R元 (年度計画)
信 州 医 療 セ ン タ ー	3,628	5,787	6,697	7,029	7,588	(7,460)
こころの医療 センター駒ヶ根	1,671	1,970	1,880	1,658	1,681	(1,750)
阿 南 病 院	2,764	2,374	2,198	2,175	2,293	(2,200)
木 曾 病 院	6,476	5,074	5,111	4,523	4,801	(4,850)

(工) 紹介率及び逆紹介率

(単位：%)

区 分		H26	H27	H28	H29	H30	R元 (年度計画)
信州医療 センター	紹介率	26.2	56.9	57.9	59.4	59.6	(59.4)
	逆紹介率	28.2	14.7	16.5	15.7	15.4	(16.7)
阿南病院	紹介率	13.7	14.9	19.5	18.8	20.3	(20.0)
	逆紹介率	11.8	12.0	13.3	14.1	13.0	(15.0)
木曾病院	紹介率	18.8	19.8	20.2	24.6	27.0	(25.0)
	逆紹介率	11.3	13.8	13.1	17.1	18.1	(17.0)
こども病院	紹介率	78.0	78.7	70.8	77.0	74.0	(77.0)
	逆紹介率	56.0	67.2	89.3	80.7	73.9	(80.0)

(オ) 介護老人保健施設の利用者数

(単位：人)

区 分		H26	H27	H28	H29	H30	R元 (年度計画)
阿南介護 老人保健施設	入所	15,451	15,644	15,166	14,729	14,026	(14,500)
	通所	996	807	819	564	710	(900)
木曾介護 老人保健施設	入所	16,395	14,475	14,531	15,822	15,378	(15,850)
	通所	1,133	1,157	1,037	820	791	(818)

(カ) 認定看護資格の取得人数

区 分	H26	H27	H28	H29	H30	R元 (年度計画)
資格取得人数	4人	5人	1人	3人	1人	(2人)

(キ) 信州木曾看護専門学校生の看護師国家試験の合格状況

区 分	H28 (1期生)	H29 (2期生)	H30 (3期生)
受験者数	29人	21人	23人
うち合格者数	29人	21人	23人
合格率	100%	100%	100%

(ク) 研修センター設備の利用者数

区 分	H26	H27	H28	H29	H30
スキルラボ利用者数 (病院機構以外)	75人	142人	167人	181人	357人
シミュレーター利用者数 (病院機構以外)	817人	411人	738人	1,084人	979人

(2) 大項目「第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項」の評価

県による評価	A	病院機構による評価	A
--------	---	-----------	---

[評価区分と判断の目安となる業務実績]

S 中期目標・中期計画を大幅に上回って達成することが見込まれる

A 中期目標・中期計画を達成することが見込まれる

B 中期目標・中期計画を下回ることが見込まれ、改善を要する

C 中期目標・中期計画を大幅に下回ることが見込まれ、抜本的な改善を要する

ア 評価の理由

「業務運営の改善及び効率化に関する事項」の「病床利用率の向上」以外の各小項目における取組について、いずれも中期目標・中期計画の達成が見込まれる。

特に、本部事務局を中心に職員の適正配置に取り組んだこと、経営改善プログラムを始め、機構全体として、収益の確保と費用の抑制に積極的に取り組み、大幅な収支改善につなげたこと、給与制度を見直し機構独自の人事給与制度の構築を進めたことについては、業務運営体制を着実に改善し、効率化に資する取組であることが認められた。

「病床利用率の向上」については、各病院の向上に向けた取組により、信州医療センター、阿南病院、こども病院では中期計画に定めた目標を平成30年度実績で上回っている。こころの医療センター駒ヶ根及び木曽病院では、目標を平成30年度実績で下回っているが、こころの医療センター駒ヶ根では在宅移行を推進し、平均在院日数の短縮に努めており、木曽病院では病床数の削減や地域包括ケア病棟への転換を行うとともに、介護医療院への転換準備を進め、効率的な病床利用に向けた取組を進めている。

以上のことから、機構一丸となった収支改善への取組、給与制度の見直しや職員の適正配置などの取組が着実に成果を上げていることから、「業務運営の改善及び効率化に関する事項」について中期目標・中期計画の達成が見込まれるため、A評価とした。

イ 第3期中期目標期間における病院機構全体の課題

- 今後も病院を持続的に運営し、地域の医療を守り続けていくため、引き続き、収入の確保と費用の抑制に積極的に取り組むことで経営基盤を強化していただきたい。
- 働き方改革関連法を踏まえ、各病院を持続的に運営し地域の医療を守るために、必要な措置を検討し、積極的に実行していただきたい。
- 病床利用率の向上に向け、各病院で様々な取組を実行してきたことは認められる一方、中期計画で定めた目標を平成30年度実績で下回る病院もあることから、引き続き、各病院において向上に向けた取組を進めるとともに、中長期的な視点で病院規模を検討していただきたい。

ウ 小項目別の評価

小項目	県の 評価	機構の 評価
1 法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり		
(1) 柔軟な組織・人事運営	A	A
(2) 仕事と子育ての両立など多様な働き方の支援	A	A
2 経営力の強化		
(1) 病院経営に一体的に取り組むための職員意識の向上	A	A
(2) 経営部門の強化	A	A
3 経営改善の取組		
(1) 年度計画と進捗管理	A	A
(2) 収益の確保と費用の抑制	A	A
(3) 情報発信と外部意見の反映	A	A
(4) 病床利用率の向上	B	B

[評価区分と判断の目安となる業務実績]

S 中期目標・中期計画を大幅に上回って達成することが見込まれる

A 中期目標・中期計画を達成することが見込まれる

B 中期目標・中期計画を下回ることが見込まれ、改善を要する

C 中期目標・中期計画を大幅に下回ることが見込まれ、抜本的な改善を要する

エ 数値目標に対する達成状況

(7) 病床利用率

(単位：%)

区 分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
信州医療センター	実績	82.4	75.9	80.2	81.9	
	計画	73.4	75.8	75.3	76.1	76.4
こころの医療 センター駒ヶ根	実績	77.1	77.4	79.2	78.5	
	計画	79.5	79.8	81.8	81.8	82.2
阿南病院	実績	50.8	58.7	63.7	60.4	
	計画	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5
木曽病院	実績	71.1	70.7	64.3	78.1	
	計画	85.4	85.3	84.9	84.6	84.0
こども病院	実績	76.1	76.0	74.5	78.0	
	計画	74.4	74.3	75.3	75.3	75.1

《病床数》

- ・信 州 平成30年11月まで272床、12月は261床、平成31年1月から264床
(結核病床、感染症病床を除く)
- ・駒ヶ根 129床
- ・阿 南 平成30年12月まで85床、平成31年1月から77床
- ・木 曽 平成30年2月まで186床、3月は181床、4月から159床 (感染症病床を除く)
- ・こども 180床

オ 主な数値指標

(ア) 医業収益対医療材料費比率

区 分	H26	H27	H28	H29	H30	R元 (年度計画)
信州医療 センター	22.6%	22.6%	23.4%	23.9%	24.3%	(26.8%)
こころの医療 センター駒ヶ根	17.6%	5.7%	5.5%	5.9%	5.7%	(6.1%)
阿南病院	16.7%	17.2%	15.2%	15.3%	15.5%	(16.6%)
木曾病院	25.1%	31.0%	26.4%	23.9%	22.4%	(23.0%)
こども病院	21.5%	20.3%	21.1%	20.6%	21.3%	(20.0%)

(イ) ジェネリック医薬品使用割合 (院内)

区 分	H26	H27	H28	H29	H30	R元 (年度計画)
信州医療 センター	60.1%	67.4%	83.6%	86.8%	90.0%	(90.0%)
阿南病院	—	47.0%	64.4%	78.4%	86.2%	(85.0%)
木曾病院	72.1%	81.3%	77.4%	80.7%	82.4%	(85.0%)
こども病院	38.0%	65.7%	78.7%	87.0%	86.5%	(80.0%)

(ウ) 医業未収金の残高 (過年度発生分)

(単位：千円)

区 分	H26	H27	H28	H29	H30
信州医療 センター	28,391	26,373	18,413	12,011	10,516
こころの医療 センター駒ヶ根	7,583	7,876	7,460	6,427	5,948
阿南病院 (老健含む)	914	179	128	272	252
木曾病院 (老健含む)	25,154	22,443	21,890	19,908	18,539
こども病院	5,417	6,921	7,425	6,444	5,250
合 計	67,459	63,791	55,317	45,063	40,504

(I) 職員数の状況（年度当初）

（単位：人）

区 分	H26	H27	H28	H29	H30	R元	対H26 増減
医 師	163	172	176	178	172	171	8
看 護 師	846	846	860	862	844	835	▲ 11
医 療 技 術 職 員	272	272	289	290	285	292	20
事 務 職 員	122	128	125	125	122	122	0
計	1,403	1,418	1,450	1,455	1,423	1,420	17

(3) 大項目「第3 財務内容の改善に関する事項」の評価

県による評価	B	病院機構による評価	B
--------	---	-----------	---

〔評価区分と判断の目安となる業務実績〕	
S	中期目標・中期計画を大幅に上回って達成することが見込まれる
A	中期目標・中期計画を達成することが見込まれる
B	中期目標・中期計画を下回ることが見込まれ、改善を要する
C	中期目標・中期計画を大幅に下回ることが見込まれ、抜本的な改善を要する

ア 評価の理由

「財務内容の改善に関する事項」について、経常収益は、中期計画を毎年度下回っているが、医業収益の増により増加傾向にある。

経常費用は、県の人事委員会勧告に準じた改定等による給与費の増により増加傾向にあり、中期計画を毎年度上回っている。

その結果、経常収支は、中期計画を毎年度下回っているが、平成29年度下半期から始めた経営改善プログラムによる収益の確保・費用の抑制の取組により、大幅に収支を改善した結果、第2期中期目標期間の平成30年度までの累計が経常収支比率100%を上回っている。

病院別では、こころの医療センター駒ヶ根では平成30年度までの累計が損失を計上しているが、あとの4病院では利益を確保している。

資金収支については、中期計画を大幅に下回り、現金収入が現金支出を大きく下回っていることから、中期目標・中期計画の達成は非常に厳しい状況となっている。

以上のことから、これらを総合的に判断し、「財務内容の改善に関する事項」について、中期目標・中期計画を下回ることが見込まれるため、B評価とした。

イ 第3期中期目標期間における病院機構全体の課題

- 持続的に病院を運営し、地域の医療を守り続けていくため、引き続き、収入の確保と費用の抑制に取り組むことで経営基盤を強化していただきたい。（再掲）
- 経営に取り組むうえで、資金収支の観点は非常に重要であることから、資金収支の長期見通しを速やかに作成していただきたい。また、作成後は、各年度の投資額や決算状況を踏まえ、更新し続けていただきたい。

ウ 小項目別の評価

小項目	県の評価	機構の評価
1 経常黒字の維持	A	A
2 資金収支の均衡	C	B

〔評価区分と判断の目安となる業務実績〕	
S	中期目標・中期計画を大幅に上回って達成することが見込まれる
A	中期目標・中期計画を達成することが見込まれる
B	中期目標・中期計画を下回ることが見込まれ、改善を要する
C	中期目標・中期計画を大幅に下回ることが見込まれ、抜本的な改善を要する

エ 主要経営指標（中期計画との対比）

(ア) 損益の状況（病院機構全体）

（単位：百万円）

科 目		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	27～30 年度 累計	令和 元 年度
経常収益（ア）	決算	23,222	23,095	23,201	23,763	93,280	
	中期計画	23,325	23,202	23,514	23,553	93,594	23,614
医業収益	決算	16,846	16,710	16,814	17,304	67,674	
	中期計画	16,864	16,728	17,046	17,102	67,740	17,183
うち入院収益	決算	11,962	12,005	12,064	12,482	48,513	
	中期計画	12,107	11,960	12,251	12,307	48,624	12,380
うち外来収益	決算	4,445	4,276	4,312	4,353	17,385	
	中期計画	4,339	4,353	4,381	4,383	17,456	4,392
その他医業収益	決算	439	429	439	469	1,776	
	中期計画	418	416	414	412	1,660	411
介護老人保健施設収益	決算	373	371	375	362	1,481	
	中期計画	403	403	403	403	1,611	403
その他経常収益	決算	522	534	532	618	2,205	
	中期計画	579	591	585	568	2,323	549
運営費負担金収益		5,480	5,480	5,480	5,480	21,920	5,480
経常費用（イ）	決算	23,185	23,358	23,324	23,346	93,214	
	中期計画	22,916	22,783	22,806	23,023	91,529	22,901
医業費用	決算	21,197	21,355	21,375	21,459	85,386	
	中期計画	20,867	20,785	20,811	21,068	83,531	20,999
うち給与費	決算	11,912	12,333	12,336	12,449	49,110	
	中期計画	11,683	11,693	11,833	12,137	47,346	12,228
うち材料費	決算	3,898	3,749	3,688	3,817	15,152	
	中期計画	3,634	3,633	3,690	3,695	14,652	3,703
うち減価償却費	決算	2,317	2,256	2,174	1,944	8,691	
	中期計画	2,353	2,257	2,089	1,982	8,682	1,897
その他医業費用	決算	3,070	3,017	3,176	3,248	12,512	
	中期計画	3,196	3,201	3,200	3,254	12,851	3,171
介護老人保健施設費用	決算	434	442	424	424	1,724	
	中期計画	468	459	455	455	1,837	459
その他経常費用	決算	1,554	1,561	1,526	1,463	6,104	
	中期計画	1,582	1,539	1,540	1,501	6,161	1,443
経常損益（ア-イ）	決算	37	▲ 264	▲ 124	417	67	
	中期計画	409	419	708	530	2,065	713
経常収支比率（ア/イ）		100.2	98.9	99.5	101.8	100.1	
臨時損益（ウ）		▲ 4	0	▲ 7	▲ 1	▲ 11	
純損益（ア-イ+ウ）		33	▲ 264	▲ 130	417	55	

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(イ) 損益の状況（病院等別）

(単位：百万円)

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	27～30 年度 累計	令和 元 年度
信州医療センター	決算	91	7	▲ 102	132	128	
	中期計画	207	213	247	219	887	308
こころの医療 センター駒ヶ根	決算	36	▲ 41	25	▲ 34	▲ 13	
	中期計画	41	51	95	11	198	▲ 32
阿南病院	決算	85	160	208	172	625	
	中期計画	▲ 60	▲ 57	▲ 40	▲ 37	▲ 194	▲ 40
木曽病院	決算	25	▲ 39	▲ 61	85	10	
	中期計画	311	312	328	288	1,239	286
こども病院	決算	66	6	137	374	583	
	中期計画	180	148	334	301	963	439
介護老人保健施設	決算	0	▲ 6	22	10	27	
	中期計画	▲ 2	11	17	19	44	19
看護師養成所	決算	▲ 17	▲ 26	▲ 27	▲ 25	▲ 94	
	中期計画	▲ 22	▲ 24	▲ 22	▲ 23	▲ 91	▲ 22
本部	決算	▲ 250	▲ 325	▲ 326	▲ 297	▲ 1,199	
	中期計画	▲ 244	▲ 235	▲ 253	▲ 248	▲ 981	▲ 245
計	決算	37	▲ 264	▲ 124	417	67	
	中期計画	409	419	708	530	2,066	714

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(ウ) 資金収支の状況（病院機構全体）

(単位：百万円)

区 分		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	27～30 年度 累計	令和 元 年度
現金収入	決算	23,996	25,267	24,428	25,159	98,849	
	中期計画	24,493	25,961	24,479	25,228	100,160	24,514
現金支出	決算	23,907	25,690	24,774	25,396	99,766	
	中期計画	24,225	26,030	24,297	25,501	100,053	24,579
資金収支	決算	89	▲ 422	▲ 346	▲ 238	▲ 917	
	中期計画	268	▲ 69	182	▲ 273	107	▲ 65

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

オ 病院別の経営指標

(7) 医業収支の状況（病院別）

（単位：百万円）

区 分		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
信州医療 センター	収益	4,839	5,359	5,230	5,444	5,633
	費用	5,867	6,191	6,160	6,369	6,374
	比率	82.5%	86.6%	84.9%	85.5%	88.4%
こころの 医療センター 駒ヶ根	収益	1,421	1,287	1,245	1,310	1,301
	費用	1,974	1,869	1,902	1,904	1,952
	比率	72.0%	68.9%	65.5%	68.8%	66.6%
阿南病院	収益	895	871	930	963	920
	費用	1,596	1,574	1,566	1,587	1,566
	比率	56.1%	55.3%	59.4%	60.7%	58.7%
木曾病院	収益	3,473	3,668	3,397	3,144	3,181
	費用	4,039	4,415	4,271	4,070	3,986
	比率	86.0%	83.1%	79.5%	77.2%	79.8%
こども病院	収益	5,830	5,660	5,909	5,953	6,269
	費用	7,186	7,149	7,455	7,445	7,580
	比率	81.1%	79.2%	79.3%	80.0%	82.7%
病院計	収益	16,458	16,846	16,710	16,814	17,304
	費用	20,662	21,197	21,355	21,375	21,459
	比率	79.7%	79.5%	78.2%	78.7%	80.6%

(イ) 医業収益に対する職員給与費比率の状況

（単位：％）

区 分	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
信 州 医 療 セ ン タ ー	65.5	63.7	66.5	65.1	63.5
こころの医療 センター駒ヶ根	90.4	103.6	110.4	104.3	106.7
阿 南 病 院	97.0	99.9	94.9	91.3	97.3
木 曾 病 院	61.6	60.4	68.5	71.4	70.7
こ だ も 病 院	68.1	72.1	72.3	72.2	69.2

3 病院等別の評価

(1) 信州医療センター

ア 高く評価する取組

- 感染症の専門治療と教育、研究機能を併せ持つ感染症センターを平成 29 年度に開設し、県内の感染症医療の質の向上させるための体制を整備した。また、第一種感染症指定医療機関等として、集団発生等の有事に備えた訓練を継続した。
- 地域のニーズに対応し、リハビリテーションや訪問診療・看護などの在宅医療を充実させるなど、須高地域における中核病院としての役割を果たした。
- 平成 28 年度において、分娩業務を一時的に休止せざるを得なくなったものの、速やかに再開するとともに、施設や人員の充実や積極的な広報に取り組んだ。
- 初期臨床研修医を受け入れるとともに、信州型総合医をはじめ、県内の医療人材を養成した。
- 債権回収・未収金対策に積極的に取り組み、患者未収金の発生を抑制し、未収金残高を大きく減少させた。

イ 第 3 期中期目標期間における課題

- 産科をはじめとする地域に必要な医療を今後も提供していただきたい。
- 県内の感染症医療の中核的な役割を引き続き果たすとともに、感染症医療に関する様々な情報を、地域に向けて積極的に発信していただきたい。
- 内視鏡検査体制について平成29年度に拡充したものの、効果が顕在化していない現状にあることから、今後も検査件数の増加など積極的に取り組んでいただきたい。
- 地域医療構想を踏まえ、長野医療圏内の医療を効率的・効果的に提供できるよう、圏域内の医療機関との連携や機能分化を検討していただきたい。

(2) こころの医療センター駒ヶ根

ア 高く評価する取組

- 県内唯一の常時対応型施設として 24 時間 365 日体制で精神科救急医療を提供するなど、県内の精神科医療の中核としての役割を果たした。
- 医師・認定看護師・臨床心理技師などの人員体制を強化し、多職種チームによる初診や思春期外来の開設、デイケアの充実を図り、児童・思春期の精神科医療を充実した。
- 地域と連携して多職種チームによる「もの忘れ外来」を開設するなど、認知症治療や認知症患者への支援に取り組んだ。
- 厚生労働省の災害派遣精神科医療チーム（D P A T）の先遣隊登録や、県の D P A T の登録を受け、体制を整備した。
- 信州大学との連携大学院教育を開始し、県内の精神科医療に貢献する医師の養成を始めた。
- 入院中から、外出・外泊訓練や多職種による訪問など退院後の生活を見据えた支援を行った結果、3 か月以内の再入院率の抑制につなげた。
- キャッチフレーズ「チャレンジ 80」（病床利用率 80%）を掲げ、業務に関する目標をわかりやすい形で共有した。

イ 第 3 期中期目標期間における課題

- 県内の精神科医療の中核として、取組を継続するとともに、ゲーム依存など、精神科医療への新たなニーズへの対応にも取り組んでいただきたい。
- 発達障がいや摂食障がいなど、ニーズが高まっている児童・思春期精神科医療について、取組を継続するとともに、強化等を図っていただきたい。
- 精神科医師の需要が高まっていることから、引き続き、信州大学との連携等により、県内の精神科医師を積極的に養成していただきたい。

(3) 阿南病院・阿南介護老人保健施設

ア 高く評価する取組

- 訪問診療や訪問看護等の在宅医療を継続し、下伊那南部地域における地域包括ケアシステムの中核的な役割を担うとともに、病院の電子カルテと阿南町地域医療介護連携システムを統合したシステムをモデル的に構築し、在宅医療と介護の連携を推進した。
- 無医地区・準無医地区へ医師・看護師・薬剤師のチームを派遣し、切れ目のない巡回診療を実施するとともに、携帯型X線装置の活用などの先進的な取組を行った。
- 「認知症なんでも相談室」における認定看護師等による相談業務や院内デイサービスの実施のほか、認知症カフェ「かふえなごみ」を開設し、認知症の方や家族を支援した。
- 小児科の日曜診療やインフルエンザ予防接種の土曜日実施、リハビリの人員体制の充実など地域のニーズに積極的に対応した。

イ 第3期中期目標期間における課題

- 救急医療や訪問看護等の在宅医療、無医地区への巡回診療など、下伊那南部地域に必要な医療を引き続き提供していただきたい。
- 人口の推移や高齢化を踏まえ、持続的な病院運営に向け、病床機能の転換や規模の見直しをさらに進めていただきたい。

(4) 木曽病院・木曽介護老人保健施設

ア 高く評価する取組

- 24時間365日の全診療科オンコール体制の救急医療や助産師外来や産後ケア事業を開始した小児・周産期医療、無医地区への巡回診療、365日リハビリテーションなど、木曽地域の唯一の有床医療機関として、地域に必要な医療を提供した。
- 訪問診療や訪問看護などの在宅医療を提供するとともに、地域包括ケア病棟を開設し、患者の状態に応じた医療の提供に取り組むなど、木曽地域の地域包括ケア体制の中核的な役割を担った。
- 木曽地域の地域がん診療病院として指定され、信州大学との連携や緩和ケア外来の開設など、がんの診療・相談体制を充実した。
- 地域内外の災害発生時に備え、災害派遣医療チーム（DMAT）が災害訓練に参加するとともに、災害拠点病院として関係機関と連携するための訓練を行った。
- 医学生を対象とする病院見学会に加え、高校生向けの医療体験を実施することで、県内医療機関における将来的な人材確保に向けた取組を行った。
- キャッチフレーズ「1歩2歩9ろじ（黒字）」（入院患者数1日129人）を掲げ、業務に関する目標をわかりやすい形で共有した。

イ 第3期中期目標期間における課題

- 人口の推移や需要の変化を注視しながら、救急医療や小児・周産期医療、在宅医療など、木曽地域の医療を持続的に提供できるよう、引き続き努めていただきたい。
- 患者数が減少傾向にあることから、木曽地域唯一の病院として、地域に必要な医療を持続的かつ効率的に提供できるよう引き続き努めていただきたい。

(5) こども病院

ア 高く評価する取組

- ドクターカーを活用した搬送を引き続き行うとともに、小児集中治療室（P I C U）を8床から12床に増床し、地域の病院で受入が困難な小児重症患者の受入体制を強化した。
- 小児股関節センターの設置、母子メンタルヘルス外来の開設、食物アレルギーの診療体制の充実など、小児・周産期医療の新たなニーズに積極的に対応した。
- 県内の病院と連携し、小児がんの診療機能を向上させるとともに、がん経験者のためのフォローアップ外来を開設した。
- 小児患者の在宅移行を地域の医療機関と連携して支援するほか、成人移行期の患者について、信州大学との連携や外来の設置により支援を拡充するなど、ポストホスピタルケアの取組を進めた。
- リニアックなどの高額医療機器を有効に活用し、成人を対象にした放射線治療にも取り組み、地域医療支援病院として地域の医療機関を支援した。
- 信州大学との連携大学院教育の準備を進め、県内の小児・周産期医療に貢献する医療従事者を養成する体制を整備した。

イ 第3期中期目標期間における課題

- 県の小児・周産期医療の中核を担う病院として、救命救急医療や専門医療に引き続き取り組むとともに、こども病院に求められる新たなニーズにも積極的に対応していただきたい。
- 県内の小児・周産期医療の水準を向上するため、信州大学との連携等により、人材の養成・輩出を積極的に行っていただきたい。

(6) 信州木曾看護専門学校

ア 特に評価する取組

- 平成 28 年度（第 1 期生）から 3 年連続で看護師国家試験に卒業生全員が合格した。
- 県立病院を始め、県内の地域医療を担う看護人材を輩出した。

イ 第 3 期中期目標期間における課題

- 県内の看護師不足地域の医療を担う看護師を安定的に養成・輩出するため、教員を計画的に養成・確保していただきたい。
- 県内の高校生に対し、引き続き信州木曾看護専門学校の取組・成果を積極的に周知することで、安定的に学生を確保していただきたい。

(7) 本部事務局

ア 特に評価する取組

- 経営改善プログラムの策定や人員配置の適正化等を各病院と取り組むとともに、給与制度の見直しに積極的に取り組んだ。
- 「魅力再発見・組織発展プロジェクト」により各病院の魅力・課題の整理を行うなど、今後の病院のさらなる発展につなげるための取組を行った。
- 研修センターの施設を充実させるとともに、職員の資質向上に取り組んだ。また、中学生向けの出前研修や医療従事者向けのシミュレーション研修を行い、県内の医療水準の向上に寄与した。

イ 第 3 期中期目標期間における課題

- 職員のモチベーションの維持・向上につながる人事評価制度について、検討を進めていただきたい。
- 研修センターの取組を広く周知するとともに、スキルラボの共同利用の促進などにより県内の医療水準の向上にさらに貢献していただきたい。